

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。今回は、来年度の学校経営方針のもとになることなどについて掲載いたしました。

□城ヶ丘の子どもたちが大人になったときの姿

□学校づくりは、まちづくり／まちづくりは、学校づくり

～新たな「学校づくり」への挑戦～

①キラッと輝くエピソード

○当たり前のことを淡々と～毎日の送迎に感謝～

②本校の教育活動

(1) 授業改善 ○成長の伝え方～個別の指導計画の記載から～

③お耳を拝借

○『学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない』

サッカー 元フランス代表監督ロジェ・ルメール

○絵本の紹介『シニガミさん』作絵 宮西達也

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

校長 上松 武



令和7年3月4日

チームふれあい 27人の先生方へ

「なかよく たのしく たくましく」生きる

子どもの育成を目指して②③ -0304 職員会議-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～

上松 武



□城ヶ丘の子どもたちが大人になったときの姿

- ・絵本『ふしぎなともだち』の世界がここにもあると心躍るニュース（※）を目にしました。
- ・2024年10月、北海道旭川市。障がいの有無にかかわらずともに学ぶ「インクルーシブ教育」の実現に向けた全国交流集会。パネリストとして中学校の同級生と一緒に登壇したカズさん。
- ・カズさんは重度の知的障がいと自閉症がありますが、中学3年間を通常の学級に在籍して学習していました。卒業後も同級生との仲間関係は続いています。



作絵たじまゆきひこ（くもん出版）

- ・一緒に過ごした同級生の一人は「カズと過ごした貴重な経験を活かし、自分が教師になって、それを広めることができたなら、いい社会になると思った」と語っていました。
- ・当時の担任の先生は、「ペンを机に並べたり、歌いだしたりとか。通常では起こらないことをどうするか考えることが多くなった。一緒にいる中で、障がい特性でできないことや、カズでもできることなんだな、などと毎日一緒に生活する中で見極めていった」



とクラスメイトの変化を話していました。

- ・城ヶ丘で学ぶ子どもたちが10年後、20年後、昼休み交流のようにまちで遊んでいたりと、給食交流のようにまちのカフェでランチをしていたりする姿を、この記事を読みながら想像しました。
- ・今の学びが城ヶ丘で過ごしている時だけで終わらないように、今から誰もが分け隔てなく暮らすことができるまちに、私たち大人が変えていかなければならないと思いました。そして、そのような社会の実現に向けて、自分のできることをやっつけていこうとあらためて考えているところです。

※Yahoo! ニュース (<http://news.yahoo.co.jp/articles/7f3a9feefbc4caac0909da57f01eb59b2033c2>)

□学校づくりは、まちづくり／まちづくりは、学校づくり

～新たな「学校づくり」への挑戦～

- ・そのような社会にしていくために、学校は、そしてふれあいの丘支援学校は、何ができるのかと考えました。
- ・本校は、教室で学び、家庭や地域でその学びを生かすことを学習スタイルとして実践してきました。地域に出て、学びを広げる機会が増えました。
- ・それによって、本校の子どもたちは、どんな人とも関わる力が身に付き、高まってきています。自分の住んでいるまちの魅力を見つけ、どう発信するか考え行動する力も高まってきています。今一緒に暮らしているまちの人の役に立つことや、このまちの賑わいに貢献しようとする力も身に付けてきています。
- ・本校の子どもたちがまちに出ることで、まちの人たちに障がいのある人のことを知ってもらい、関わることを通して、まちの人たちと分け隔てのない関係性を築いていくことができます。
- ・このことは、誰もが自分らしく、自分の持ち味を生かして暮らせるまちづくりにつながっていると考えています。
- ・「今、本校が取り組んでいる教育実践は、障がいがある子どもたちのことを知り、関わり方を知り、待ちの人たちの意識を変え、今と将来のまちづくりにつながっている」という意識を職員全員が今よりも高くもって、本校の「共生の理念」に基づく教育を推進していきましょう。
- ・これを本校のこれからの役割と考え、本校に関わってくださっている方々と新たな学校づくりに挑戦していきたいと考えています。

1 キラッと輝くエピソード

○当たり前のことをいつも淡々と

～毎日の送迎に感謝～

本校のほとんどの子どもたちの登校は津南町からの送迎車1台と、十日町市内を巡回する送迎車3台によって支えられています。下校時は、放課後等デイサービス事業所の送迎車1台が加わり5台です。



①登下校時の大切なコミュニケーション

- ・車内での子どもたちの様子を毎朝、ドライバーの方やヘルパーの方から聞かせてもらっています。内容は、その日の指導に生かすことができます。
- ・子どもたちの日常は連続しています。その連続している時間の中での出来事は、その後に影響を与えることがあるため、**情報の共有**はとても大切です。
- ・いろいろなことに気付いてくださり、伝えてくれます。そして、一緒に考え対応してくださいます。**常に同じ方向を向いて**、子どもたちへの支援を考えて実行して下さることに感謝です。
- ・先日の大雪による悪天候でも安心・安全に徹した運転で送迎して下さっています。その当然のことにプラスして、様々な情報共有ができる関係性はとても嬉しく、「チームふれあい」を感じます。

②乗車時の微笑ましい光景

- ・小学部の6年生と1年生が児童生徒玄関から手をつないで乗車する姿を時々目にします。本校のよいところであり、自慢の一つです。
- ・**年長者が年下の者を気遣ったり、正しい模範を示したり**することで、自己有用感の高まりが期待できます。先日の全校朝会でも同じような場面がありました。
- ・いつでも、どこでも同じようなやさしい行動ができることは、やはり「チームふれあい」だからだと思います。

毎日の登下校が安全で、安心だからこそ、見られる姿だということをあらためて考えさせられました。毎日の送迎に感謝です。そして、送り出しをして「くださる保護者の方々にも感謝です。

2 本校の教育活動

(1) 授業改善

○成長の伝え方～個別の指導計画の記載から～

この時期、個別の指導計画の年間評価が起案されます。児童生徒全員分の評価を読んでいて、心掛けて書くともっと伝わりやすくなると感じた点を2つにまとめました。

①伝わりやすい書き方

- ・下のア～エの順で書くことによって、読みやすく分かりやすい内容になります。
- ・この順を追った記載は、私たちが授業を考えるときの順序ではないでしょうか。「指導と評価の一体化」とはこんなことなのかもしれません。

ア どんな学習に取り組んだのか。

イ その学習活動に私たち教師はどのように取り組ませたのか。

ウ 取り組んだ結果、子どもは何を身に付けたのか。どう変容したのか。何ができるようになったのか。

エ 身に付けたことを他の場面で活用する姿はあったのか。

②評価の3観点を意識した書き方

- ・評価の3観点を意識して記載するように書きましょう。職員会議の資料にもありましたが、私たちが実践している授業を通して、評価の3観点を次のように考えてみてください。

□知識・技能：例えば、算数の計算方法だけ、漢字の読み書きだけを覚えるだけではありません。なぜその計算方法で正しく答えが出るのか、この漢字は他にどの

ような使い方があるのかなど理解を伴った知識や技能であるか評価します。

□思考・判断・表現：基礎的な知識・技能をうまく活用しながら、さらにその先を自分なりに考え、考えたことをわかりやすく人に伝えることや、単に知識・技能を身に付けているだけではなく、それらを使ってプラスアルファの自分なりの考えで行動するなどの点から評価します。

□主体的に学習に取り組む態度：「今日はプリントを3枚がんばった」「問題に20分集中して取り組んだ」「跳び箱5段を何度も挑戦し跳べるようになった」などは大切な主体的に取り組む態度です。更に、違う取り組み方や挑戦方法を考えて実践したかどうか大切な評価の視点となります。

- ・参考となる記載例を下の表に示しましたので、来年度の評価作成に生かすとともに、目標設定にも生かしてください。

学習の様子				
職業基礎	算数数学	特別活動	図画工作	体育
紙工班では、牛乳パック切りに取り組んだ。繰り返すことで切り方のコツを覚え、30分間で60個を切ることができた。新製品にも意欲的に取り組んだ。	広告から買う物を選び、設定金額内で買う学習をした。電卓を使って計算し、設定金額を超えることなく、おつりが少なくなるとうおに品物を選ぶことができた。	給食当番では、盛り付けと配膳を担当した。主菜を崩さないようにトングの持ち方や使い方に気を付けて盛り付けをしたり、汁物をこぼさないように配膳できた。	ハサミの扱いが上達した。線をよく見てハサミを動かし、ハートや星の形を切り抜いた。紙の持ち方を工夫して、余白部分を切り整える仕上げもできた。	1300mの持久走では、自分で目標記録を設定し、毎時間、意識して取り組んだ。最後まで自分のペースで走り続け、当日はベストタイムを更新した。

- ・例に示した評価から、どの記述が何に当たるのか考えてみてください。次のページに例をいくつか示しました。

例1：職業基礎

紙工班では、牛乳パック切りに取り組んだ。繰り返すことで切り方のコツを覚え、30分間で60個を切ることができた。新製品にも意欲的に取り組んだ。

例2：特別活動

給食当番では盛り付けと配膳を担当した。主菜を崩れないようにトングの持ち方や使い方に気を付けて盛り付けをしたり、汁物をこぼさないように配膳したりできた。

※知識・技能：太字下線 思考・判断・表現：二重下線 主体的に学習に取り組む態度：波下線

- ・特に「主体的に学習に取り組む態度」が身に付いていることが、これからの時代を生きる子どもたちにはとても重要です。例2の評価ができるためには、

「どうすると食べやすく、見た目にもきれいに盛り付けられるかな？」

「そのためにはどうしたらいいかな？」「どんなことが工夫できるかな？」

と考えさせる発問を、授業中に意識的に行うことが欠かせません。この発問で子どもたちの学びに広がりや深まりが生じてきます。

- ・このことが来年度目指していきたい「自分の頭で考えて行動する子どもの育成」だと考えています。この点に基づいた授業改善を常に心掛けて実践していきましょう。

3 お耳を拝借!!

(1) 『学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない』

- ・この言葉は、サッカーの元フランス代表監督であるロジェ・ルメール氏の名言です。

- ・皆さんはこの言葉をどう受け止めますか。私は、本校に勤めている同僚から自分になりモノを、相手をリスペクトして謙虚に学ぶことだと受け止めました。
- ・「あの人はどうも苦手だ」「うまくやっけていけない」などと口にする前に、そう思っている自分自身はどういう人間なのか振り返ってください。あらためることがあれば、潔くあらめてください。「あらためることを見つけること」も「学ぶこと」です。そのためには、相手に敬意を払い謙虚に教えるを乞う気持ちがなければなりません。
- ・私は本校の現状から、この名言を次のように言い換えます。

『同僚から謙虚に学ぶことをやめたら、

本校の一員として教えることをやめなければならない』

- ・とても厳しい言い方ですが、私たち一人一人が自分を変える努力をしなければ、子どもたちの今と将来に必要な教育は提供できないという覚悟で、ふれあいの丘支援学校に勤めてください。

(2) 絵本の紹介

『シニガミさん』 作絵 宮西達也 えほんの杜



腹ペコオオカミは、ある日、森で病気のコブタを見つけます。すぐに食べようとしたけれど、コブタが元気になってから…とオオカミは自分の家に連れ帰り、看病を始めます。そんな2匹の近くには彼らを見つめるシニガミさんがいたんです——。

命の尊さ、人との関わりの大切さを伝える作品。ハラハラドキドキ、最後にホロリ…。 (絵本ナビ ホームページから引用)

このオオカミとコブタのような関係を、日々の教育活動を通して、私たち職員同士で築いていきませんか。